

平成30年度 国立吉備青少年自然の家教育事業

免許状更新講習 ～生徒指導・学級経営に活かす体験活動～

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

教員が体験活動の意義について理解するとともに、児童・生徒の集団宿泊活動を効果的に実施するための基本的な体験活動の指導技術を身に付ける。また、学習指導要領における体験活動の取扱いを理解し、教育課程の編成や教育活動に体験活動を取り入れる方法を講義や実習を通して習得する。

2. 事業の概要

(1) 期日

平成30年8月16日（木）～8月18日（土） 2泊3日（日帰り参加可）

(2) 参加者

① 募集対象・人数

小学校教諭（幼稚園教諭・中学校教諭・高等学校教諭も受講可）・24人

② 参加人数

41人

(3) 講師等

① 講義1・実習1「体験活動の導入とその指導法」

講師：川埜 誠（国立吉備青少年自然の家 次長）

② 講義2「体験活動の意義と学習指導要領」

講師：杉田 洋 氏（國學院大學 人間開発学部 教授）

③ 実習2「カッター活動の教育効果と実習」

講師：佐藤 泰之（国立吉備青少年自然の家 企画指導専門職）

④ 講義3「教育の現状と課題」

講師：石本 康一郎 氏（岡山県教育庁義務教育課 課長）

⑤ 実習3「火起こし体験と野外炊事の理論と実践」

講師：西山 一之進（国立吉備青少年自然の家 企画指導専門職）

⑥ 実習4「オリエンテーリングの指導法と実践」

講師：佐藤 泰之（国立吉備青少年自然の家 企画指導専門職）

⑦ 講義4「集団宿泊体験活動の企画・運営」

講師：高藤 佳明（国立吉備青少年自然の家 所長）

(4) 企画・運営のポイント

① 講義や実習などの体験を通して、学校現場や勤務地で活用できる内容を意識して取組を行った。その中で、グループでの活動を多く取り入れてコミュニケーションを図る運営とした。

② 昨年度と同様に日帰り参加も可能として、参加しやすい環境を整えて受講者を募った。

3. 活動の内容等

(1) 日程

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
1日目 8月16日(木)				受付	開講式	講義・体験 「体験活動の導入と その指導法」	昼食 休憩	講義 「体験活動の意義と 学習指導要領」		実習 「カッター活動の教育効果と 実習」	夕食 休憩	入浴 休憩	情報交流会			就寝 準備	就寝
2日目 8月17日(金)		起床 洗面	朝のつどい 朝食 休憩	移動	講義 「教育の現状と 課題」	休憩	実習 「火起こし体験と野外炊事の 理論と実践」	休憩		実習 「オリエンテーリングの 指導法と実践」	夕食 休憩	入浴 休憩	自習・休憩		就寝 準備	就寝	
3日目 8月18日(土)		起床 洗面	朝のつどい 朝食 休憩	清掃	講義 「集団宿泊体験活動の 企画・運営」	履修 認定試験 について	休憩	昼食 休憩	評価 「履修認 定試験」	閉講式							

(2) 活動の状況



【体験活動の導入とその指導法】



【体験活動の導入とその指導法】



【体験活動の導入とその指導法】



【カッター活動の教育効果と実習】



【カッター活動の教育効果と実習】



【体験活動の意義と学習指導要領】



【教育の現状と課題】



【火起こし体験と野外炊事の理論と実践】



【火起こし体験と野外炊事の理論と実践】



【オリエンテーリングの指導法と実践】



【集団宿泊体験活動の企画・運営】



【集団宿泊体験活動の企画・運営】

4. 成果・課題

(1) 満足度

満足：100%

(2) 参加者の声

- ① みんなと関わりながら学習する大切さを学びました。
- ② 体験を多く取り入れた内容で、本当に身に付くものが多かった。
- ③ 杉田先生の講義は、いつも聴きいられる点があり、とても考えさせられた。
- ④ 体験活動を通して、失敗や成功を経験でき、仲間との協力や自立につなげることができると思いました。
- ⑤ 年齢的についていけるかと思いましたが、全く心配することがなかった。

- ⑥ いつもは生徒の様子を見るのがほとんどだったが、今回、自分が実際に体験することで新たな発見が多くあった。
- ⑦ まずは、活動をどのように行うのか。そして指導する際には何に気をつけたらよいのかを学ぶことができました。
- ⑧ 自然体験のことはもちろん、仲間づくりのきっかけづくりや普段の教室で使えるネタなども提供してもらえたのでやってみたいです。

(3) 成果

- ① 受講者の興味・関心に沿った講義の内容や実習で、体験活動の意義を理解するとともに仲間づくりの大切さを気づかせることができた。
- ② 昨年度同様に日帰り参加も可能として参加者を募ったところ、定員を大きく上回る受講者を集めることができた。

(4) 今後の課題

宿泊体験は、参加者同士の交流が一層深まり、有意義な活動につながると考えるが、日帰りがあるので参加しやすいという意見もある。宿泊の方がより効果が高まると考えられるので、宿泊の人数が増えるように、魅力あるプログラムの企画や広報の工夫をする必要がある。

担当:企画指導専門職 西山 一之進